

## 牛がいなくても群生地とは 北海道地名のなぞとアイヌ

ふだんは軽く見過ごしていることでも、改めて見直してみると、何とも解釈に苦しむようなことが少なくない。

そのひとつが、北海道の地名で、この地名にはアイヌ語を起源としているものが少なくないので、素人判断で軽くみると、とんだ「ボタンのかけ違い」になりかねない。たとえば、

アイヌイ (愛牛)、	イカウシ (伊香牛)、	イナウウシ (稲牛)、
イヌンウシベツ (犬牛別)、	ウシシベツ (牛首別)、	エオロシ (養老牛)、
オイナウウシ (追名牛)、	オキキニウシ (置杵牛)、	オニウシ (鬼牛)、
キトウシ (喜斗牛)、	クツタルウシ (屈足牛)、	クマウシ (熊牛)、
サシウシ (刺牛)、	サルキウシ (去来牛)、	シクツウシ (祝津牛)、
セタニウシ (背谷牛)、	ソーウシナイ (添牛内)、	タツニウシ (立牛)、
ヒウシナイ (緋牛内)、	ビパウシ (美馬牛)、	ヤシユウシ (安牛)、
ヨコウシ (横牛)		

などであるから、北海道つてずいぶん牛の産地が多いんだな、と感心すると、これがまるっ

きりの当て字(ー)なのである。

つまり、アイヌ語で△何々ウシ：USI▽というのは、地名に付ける特殊な語尾で、何々がそこに群生しているとか、群がっているといった意味なのである。

ところが、この△USI▽に牛の字を当てたため、とんだ誤解のもとになったのだった。

で、ついでに言えば、愛牛はアイヌ語でトゲ桐、稲牛は祭壇のある川。牛首別は鹿の足跡の多い川となり、養老牛は頭を水に入れて潤す所。鬼牛は川下に木の多い所。喜斗牛は行者ニンニクの群生地と、とんでもない意味になってしまう。

一方、本州の日根牛、唐牛、野牛、平牛、室牛、野付牛、坂牛、切牛などの地名も、アイヌ語の△USI▽を転用したものとみられている。

で、真実、牛とのつながりがあったとみられるのは、牛首、牛飼、牛込、牛牧、牛尾、牛山など、牛何々、という形の地名がらいたったのでは？

と目されている。

## クンボイン・知識

### 冷蔵(チルド)肉の保存

食肉を家庭用の冷蔵庫で保存する場合、特に温度や湿度が高い夏場は、頻繁なドアの開閉による庫内温度の上昇に注意しましょう。冷気が行き渡るように、庫内を整理して、詰め込み過ぎないことも大切です。家事の都合で、まとめて買い置く場合には、料理用途に切り分け、外気を遮断するラップ材や密閉容器で保存して下さい。そのような場合でも早く食べきるようにして下さい。